

大変な時代

住職 堤 俊翁

秋も深まり紅葉の季節となつてまいりました。

9月の同時多発テロに対する報復から、ついに戦争という悲しむべき事態に入りました。さらにその報復としてアメリカ本土での炭素菌によるテロがおこり、郵便局員が死亡するという事までおこりました。

希望をもって迎えた21世紀の最初にこのような戦争がおこることを誰が期待していたでしょうか？しかも人々が救いを求める宗教を利用してのこの愚かな行いに、人間の性(さが)のようなものを感じているのは私だけでしょうか？

また、先の大戦で唯一原爆の被害を受け、最も平和の貴さをわかっており、しかも、サリン事件と言う、最も卑劣なテロを経験した我々日本人は、この戦争に対して、なにかできることはないのでしょうか？

よく考えて平和のために働くべきではないのでしょうか？そんなことを思う日々です。

この度浄土宗から声明が出されましたので、別紙に御紹介いたします。ぜひ、お読み下さい。法然上人がとかれた絶対平等のお念仏の御教えにより、我々の住む娑婆が平和な世界となりますよう。祈念してやみません。

一人一人の行動が阿弥陀様のお導きによって浄化されますよう。 合掌

田川福円寺参詣

10月25日 お念仏講のみなさん、14日会のみなさんと住職夫人の里である、田川郡方城町の福円寺へお詣りをいたしました。



福円寺本堂と富永武元御住職



ピアノコンサートの御案内

日時 11月16日(金)午後7時より

場所 無量寺 1階ホール

入場無料

出演 住職トリオ、ほか

演奏曲 TSUNAMI, テイクファイブ
いつか王子様が、タイタニック
愛と青春の旅立ち、白鳥
リベルタンゴ、その他



どうぞ気軽においで下さい。

一皿精進

Vegetarian Cooking

十夜和え

養運寺住職夫人 田中明子さん



材料

きゅうり、、、 2本
えのき茸、、、 1束
白ごまペースト、大さじ 3杯
砂糖、、、、、、 大さじ 3杯
酢、、、、、、、、 大さじ 1 杯
醤油、、、、、、、、 小さじ 1 杯
ゆず、、、、、、、、 少々

作り方

- 1、きゅうりは小口切りにして塩もみしておく。
- 2、えのき茸はさっと湯どうしして、半分に切る。
- 3、ごまペーストに、砂糖、酢、醤油を加えて味をととのえ、小鉢に盛っておいた1、2にあえる。
- 4、ゆずを添えて出来上がり。



一、秩序 共に考う

人が集まって生きてゆく時には一つの約束・申し合わせ・秩序が必要と思ふ。仁・義・礼・智・信の五徳を備えた人が人間社会には大切であると言はば、行政機構の定まった今の時代ではちよつと面喰うかも知れない。およそ人格形成は家族構成と地域社会に依る処が大きいのではなからうか。又、教育環境に依つても異なつてくる。時代環境にても同様である。人は時代と社会に生きるといふ事である。然し乍ら時代や社会がどうであろうとも真実の生き方を求め貫いた人達は数限りないであろう。人の一生は数十年の時が移り行くだけであろう。何を求めて、何を為すかと考えるか、何も求めず、何も為さず、あるがままに過すか、学ぶということがそのまま考へることになり、考へることが行ふこととなるのである。私達は学び考へ、行はねばならない。今という時代は混沌という言葉の中に複雑な様相を示し、秩序があるが如くであるが、本当は無秩序に近いのではなからうか。言論・報道の自由といふことが何を言つても、伝えても良いのであろうか。言論の自由が人に及ぼす良い面と悪い面を考へる時、言う側、伝える側の責任はどう問われるのであろうか。これに依つて社会に良い影響を与えるか、悪い影響を及ぼすかといふことを充分に考へ、社会に役立つ為自由に尊重して害になることの為には慎しみ正す心で伝えるならば、むしろその様な心構えで臨むべきではなからうか、と考へざるを得ない。権利といふことも誰もが主張する時皆一様に有するものであるが、権利を支える責任の重大さを権利を主張する以上に考へた上での事であるかどうか。ここが認識されている

か、いないか、色々な事件と裁判を報道で見ると、今の時代は行き過ぎになるのではなからうか。最近の地下鉄サリン事件・毒カレー事件等では被害に会つて命を亡くした人や、後遺症に苦しめられる人がいて、加害者がどうなるかといふ裁判で、裁判の時真実のみを語る誓いを立てた人が自分を守る為には真実以外の事を語つたり、黙否したり、又は弁護人が裁判を有利にする計らいでもし真実が枉られるようなことが生じたとしたら、犯罪という結果を法で裁く苦勞は大変なことであろうと思ふ。又、遺産の相続でもその税が払えず財産を処分して税を払い三代で何もなくなる等世間で言われている事が結果として出るならば、この事の重大さをどの様に受け止めるべきかと、考へて見るべきであり、どう対処するかに苦勞のある事と思ふ。この国で戦後五十年の歴史の中で敷かれた一本のレールはどの様なレールなのか、自分自身が乗っているレールを二千年前迄、又、それよりはるか古代迄遡戻つて考へて見る時、さらにこのレールがこれから伸びてゆく先を考へて見る事の大切さを思ふ時、今混沌の時代の私達は心を一つにする。一つの目的に向つて共に進むという考へ方生き方の大切さが忘れられているのではないかと、自分のことだけを考へ、自己中心の時代ではなからうかと思ふ。言はばレールの見えない時代ではなからうか。大切にすべきものは、自分・家族・その為の社会・国家・時代であり歴史である。未来があるといふこと、明日に向つて生きるといふ事が、自分自身を磨く事の大切さに気付かれてこそ、一人一人の尊さがあるのではなからうか。今は無秩序・自分勝手ばかり通つていけると感じる時代ではないかと。

一、遠心力(拡大)と同心力(縮小)

若い頃、考えた事であるが、自分で自分の気持を高めたり静めたりしなければならぬ経験をした。バレーボールというスポーツに熱中し

ていた頃である。試合中には特にそうであった。その時にふと自分で自分の気持を人生の場において自在に変えることが出来なければいけないと、そうしなければ自分で自分を成長させることは出来ないだろうと、ある意味では人生は芝居であり、自分は主役なのだと思つたことである。

この様に考へる人はたくさんいるのではなからうか。この世の中の全ての出来事というものは、相反する力に依つて調和が保たれている様だ。地球に重力があるといふことは向心力(内にとまるとする力)縮小の働きに依るものである(水滴からは最も安定した形を採ろうとする力)。自転していることに依つて外に働く力が植物が上に伸び木が育ち人が大地に立てるといふことが遠心力である。此処に相反する目に見えない力の中で現象が起っている。

生きる、育つといふことも、死への旅路をひた走っているだけだと考へると、何か味気ない虚無感に陥る人、逆に与えられた時の大切さの意味を考へる人もいるのではなからうか。如何に死ぬかといふ事を考へて如何に生きるかといふ問題を解決し得心した人はたくさんいるのではなからうか。中国の物語三国志の諸葛孔明といふ人は、物語の中で夜空の星の輝きを観て自分の命運を占い戦の勝敗を占い、天才軍師として登場しているが、夜空の星の輝きをみてといふことが、この世の事象は星の動きと輝きに依つて決つてくるといふことが考へさせられるところである。物語の面白さと登場人物のすばらしさに心を奪はれることなく、登場人物はどの様に物を観・考へ(行動)生きたかといふこと、どこから知識と智慧を得たのかといふ事に目を向けるべきである。この世を生み出す目に見えない力とはからの心の在ることを識つて、その力と心を自分の歴史に重ねて生きたといふ事が大切なところではなからうか。天祐天命・天運、従つて生き切るといふ基本に順じた人であることを見極めねばならないのではなからうか。おそらく誰人とても、夜空の星の輝きを

観て心に何も感じない人等存在しないのではなからうか。人工的な光や明るさの中に生きていて夜空の星の輝きを観て心に感じるこのない人やその様な体験の得られない時代や環境の中に身を置いて目先の出来事に追われているとしたならば、これは人の世に混沌をもたらす以外の何事でもないのではなからうか。人のいのちは心臓の鼓動(拡大・縮小)に依つて血液と栄養を循環させている。いつも不安定に遠心的な力と向心的な力の狭間でころころと思ひ定まらない(止まらない)事に依つて生きられるように出来ている。迷妄こそ本性なりと言ひ切つても良いのであろう。ここに人間の悲しさと悲しさの中からふるい起たせる勇気を見い出せるならば、煩惱の中に菩提の種を見い出すということも、泥中より蓮華の生じる不思議の変化も、何を意図しているのか判り易いのではなからうか。草を肥料とする為には腐らせて堆肥とするか、燃して灰とするかに依つて効力が大きく変化するのである。人間の心を育てる為には、何をどうすれば良いのであろうか。ここに人生の順逆の縁・幸不幸の出来事、喜怒哀楽の人生模様なくしてはならないことになる。娑婆の模様の様変わり、この世は何の為の處か、何故この土は必要なのか、み仏のみ心の深さにこの世の真の意味をさとり、我等の永遠の平安といのちを勝ち得る浄土はどの様な土なのかと相反する現象の中から一筋の細い光の糸を引き出すことを考へて見るべきである。

唱ふれば仏も我もなかりけり
ただ南無阿弥陀佛の聲のみぞして
ありてある ありてありあまりたる
この世の不思議に ただ従いてゆくのみ